

# ニースレター

(2015年 11月号)

グループホームネット 香川



## もくじ

○ 理	事	長	卷	頭	言	.....	( 2 )
○ 研		修	報		告	.....	( 2 )
○ 新	入	社	員	挨	拶	.....	( 3 )
○ 広	報	部	会	か	ら	.....	( 5 )
○ 事	務	局	便		り	.....	( 8 )

▼ △ ▼ △ **理事長巻頭言** ▼ △ ▼ △  
**「福祉」とは？**

理事長 細谷 要一

政府、マスコミ… いつのまにか「福祉」という言葉が消えてしまいました。意識的にか無意識的なのか。

インターネットで「障害者総合福祉法」と打ち込んでも「障害者総合支援法」が出てきます。4年前、厚生労働省は障害者自身や支持者・関係者からの意見を取り入れて「自立支援法」を廃止して新しい障害者福祉の新法を作るとしていたのに…。国会では梯子をはずされ「障害者総合福祉法（仮）」から“福祉”が取れて「障害者総合支援法」となりました。結局、あれだけ障害者から批判が多く「違憲訴訟」まで起きていたものが、少しの手直し（「障害のある人の基本的人権の尊重」が明記されるなど）はあったとしても、「自立支援法（平成17年）」の一部改正でしかありませんでした。

我々は、障害があってもなくても、普通に街の中で生活できることがあたりまえのことだと考えています。

しかし、何十年も前と変わらずに 一障害者、特に精神障害者は「公共の福祉に反する」ところがあるので、閉鎖・拘束されたところに居ることが良いのだ一と考える人が多いことを、改めて意識させられることがありました。

精神障害の場合は、病気の側面があって医療が切り離せないのが特徴だともいえます。そこには普通の医療、あたりまえの医療があれば良いわけですが、まだまだ古い体質が見られることがあります。

どんな病気であっても病気を理由に、人としての人格を損なうような扱いを認めてはいけません。倫理的にはもちろん最低限、法制度に反するようなことがあってはいけないと思います。

福祉におけるノーマライゼーション、インテグレーション、ICF…。精神障害者福祉では、国連の精神保健ケア改善のための諸原則、障害者権利条約など新しい基準ができて、世の中にその考え方が浸透するには相当な時間がかかるものだと、改めて感じました。

心痛む今日このごろです。

▼ △ ▼ △ **研 修 報 告** ▼ △ ▼ △  
**病 院 見 学 を し て**

ホームワーカー 西本 洋子

その病院は小高い山の上であり、瀬戸内海が一望できます。3年前に建て替えられたそうで、白を基調にした美しい建物です。木々が身近にあり、自然を感じ季節を感じることが出来ます。屋上には沢山のソーラーパネルが並び、施設の電気の多くをまかなっているそうです。

保護室に案内していただきました。想像していたより広い室内。通路を挟んで外の景色も見られます。カメラは設置されておらず、柵もありません。トイレの水も手洗いの水も自分のタイミングで使えると伺いました。ということは、他の病院ではカメラや柵があること、トイレや手洗いの水は自分で操作して使えないところもあるという事になります。初めてで、驚くことばかりです。

保護室の戸について説明をしていただきながら、スタッフの方が静かにゆっくり戸を閉められました。数人、中で一緒に居たにも関わらず、外の美しい景色があるにも関わらず、胸が締め付けられるような、圧迫されるような、なんとも言えない不安な気持ちになりました。

一般病棟では、廊下ですれ違った数人の患者さんが挨拶をしてくださいました。廊下が広く、天井も高く、ゆったりとした空間。室内は家具や机が隣の方との仕切りになり、向かいの方とはカーテンで仕切られているので、4人部屋でもプライバシーに配慮がなされていました。

カーテンの上部はマジックテープになっていて、強く引っ張ると外れる工夫もされていました。また、個室があり、保護室以外の個室は珍しいそうです。食堂には飲料水が準備され、自由に利用できるようになっていました。みなさん、穏やかに過ごされているのが印象的でした。

デイの様子も見せていただきました。絵や書道などの制作、特にカラオケは人気があるそうで、楽しそうに活動されていました。落ち着いたのある広い図書室は羨ましかったです。

喫茶コーナーでは、利用者さんがドリンクやデザートの準備や接客をされているそうです。今回の見学では利用できなかったのですが、今度はぜひ、オープンしている時間に伺いたいと思いました。

グループホームの利用者さんに、見学のことを話しました。あまりにイメージと違う環境に、大変、驚かされていました。

スタッフの方々が患者さんに寄り添った中で、治療や日々の活動が行われているという、温かい印象を受けました。

これまでグループホームの利用者さんと話していても、入院時の環境やデイの活動の様子など、あまりイメージが湧かなかったのですが、今回の見学で実際に見ることができたので、今後は具体的なイメージを持って話を伺うことができると思います。ありがとうございました。

## 山下ワールドへ行ってきました

ホームワーカー 山田 真美

徳島の街の中、高松にもあるようなシャッター街となりつつある商店街の中に、喫茶店「あっぷる」があります。



奥に細長い店に入ると、その奥の狭い厨房で数人の男女がせっせとランチに出される料理を作っていました。手前で盛り付けをしていたおばちゃんが優しく笑顔でニコリと、見学に来た私たちを迎えてくれます。手際よくそれぞれの仕事をこなしていく姿には働く者の緊張感があり、案内されて上がった2階は、下と同じように細長い空間

で、弁当箱を100個並べて盛り付けをしていました。タッパーに入れたご飯をパカッと裏返して弁当箱に詰めていく作業に経験と知恵が詰まっているのを感じました。

そして、いよいよ楽しみにしていたランチタイム。今日のメニューは豚カツの卵とじ、ほうれん草とベーコンのバター炒め、ポテトサラダ。優しい味。毎日通って来るお客さん

がいる事も納得です。

私たちが食べている間に、表ではすでにお弁当が売られていました。次々に弁当を求めに来られるお客さん。本当に地域に定着しているんですね。



次に案内されたのが、月に1度開かれる徳島マルシェの開催地でもある新町川ボードウォークに面したスイーツ工房。ウォーターフロントのとてもおしゃれな場所で、毎日こんな景色を見ながら働けたらいいなあと思いました。

スイーツ工房はピンクほいベージュの壁に赤がポイントの可愛らしいいで立ちで、丁寧に作られた美味しいチーズケーキや評判のロールケーキがあり、お腹いっぱいでも頂ける美味しさでした。

喫茶店「あっぷる」やスイーツ工房でメンバーやスタッフにお会いして、お話しをさせて頂き、皆さん、本当にうれしそうに、楽しそうにしているのが印象的でした。毎日通って来る場所が出来て良かった。

働く事は楽しいと言われていました。

そこを取り仕切る山下さんは、社会福祉法人ハートランドの理事長ですが、そんな肩書は何のその、皆が楽しくなれる事を一緒にやろうと、持ち前の感性とフットワークをフル活用して、喫茶店「あっぷる」、スイーツ工房の運営、広報活動、レクリエーション、イベント等を繰り広げておられます。

健康な人が普通に経験してきたこと、仕事、遊び、恋愛、結婚等、全ての事を病気のために経験することが出来なかった彼らに経験して欲しい。そのための仕掛けを作るのが自分達の仕事だと言われます。そんな山下さんが仕掛けた畏にはまってうれしそうにその世界で踊り歌うメンバーやスタッフ。そこは福祉の世界と言うよりは山下ワールドだと私には見えました。そして私たちもこのグループホームでみんなと一緒に何か楽しい事をやってみたくなりました。

山下さんをはじめとするハートランドの皆様、大変お世話になりありがとうございました。私たちも負けずに楽しい事一杯探して行きます。



## ▼△▼△ 終着駅 翌朝は始発駅 ▼△▼△

広報担当 うちだ はかる

グループホームネット香川（以下 GHNK）は、利用者の望む「生き方のサポート」を中心とした活動をしています。精神の病によって生きづらさを抱えている当事者が、一人暮らしをする前段階として GHNK を利用する位置づけです。

私達は、障害の有無にかかわらず様々な生きづらさを抱えています。もちろん、理事長以下理事、スタッフも同様です。

生きづらさを抱えながら生きていく「コツ」は、周囲にうまく依存することのようです。

例えば、農家の方が汗水流して作った「お米」を買って食べるなどなど。

自立とは、周囲の環境に依存すること（利用するとも言います）。

GHNK を上手く利用して、あなたの目指す生活を実現しませんか。

## ▼△▼△ 新入社員挨拶 ▼△▼△ 「世話人さん」

ホームワーカー 和泉 真由美

平成 27 年 4 月 1 日にグループホームネット香川に入社し、研修後、ピアーズ仏生山のホームワーカーとして配属されました和泉です。

ある仕事で身体障害者の方にお会いする機会が増え、声をかけられるたびに「日常生活はどうしているのだろう」「障害者の方に対して、ある程度努力して健常者と同じように接している人が、どれくらいいるのだろう」と思う時がありました。

ある時、雨の中で車から車椅子に移ろうとしてうまくいかず、車と車椅子の間に挟まれて宙に浮いている状態の方が、駐車場におられました。私が走って行って車の中に戻そうとしても、相手は男性で無理でした。そこへ女性が一人来て下さって、二人で車の中に戻し、その後、一人が傘をさし、一人が車椅子を押して、ショッピングセンターの入り口まで送りました。

雨の中どれくらいの間その状態でいたのかは聞きませんでした。見て見ぬふりをした人は、何人かいたと思います。恥ずかしさと、どうすればいいかわからなくて、助けに行けなかった人もいると思います。ただ、見て障害者だとわかる方もなかなか手を差し出すことができないのが、今の現状だと思いました。見た目ではわからない、耳や内部や精神の障害者は、自分から言わない

と困っていても手を差し伸べてもらえません。でも自分の障害を言うのは、とても勇気のいる行動です。

このことがきっかけで、福祉関係の仕事をしたいと思いました。知識はゼロでも、今の年齢だからこそ、ゆっくりお話をお聞きし、対応ができるかもしれないので、この仕事に興味をもちました。人と人との関わり。7人いれば7通りの人生と人間性がある。不安な反面、楽しみです。

ワーカーとして一人で持ち場を任されて半年。入居者の方にたくさん勉強させてもらっています。ワーカーの心配もしてくれます。この仕事を選んで良かったと思っています。また、先輩ワーカーの方々が、何かあるとすぐ心配してメールや電話をしてくれます。

これからも仏生山の世話人さんとして半歩ずつ進んで行こうと思いますので、ご指導よろしくお願ひします。

▼ △ ▼ △ **事務局便り** ▼ △ ▼ △  
**空室のお知らせ**

サービス管理責任者 増田 周作

NPOの会員みなさま、関係機関みなさま、いつも、ご支援していただき、誠にありがとうございます。

私たちのグループホームでは昨年から続いている様々な出来事の中で、入居者の退去が重なったこともあり、いくつか空室があります。

ここ数年、ほぼ満室状態が続いていたので、「空室がないのでは？」と思われる方も多いのではないのでしょうか。

私たちは、まず入居者の希望をお聞きし、本人主体の支援を行えるように、入居者に寄り添い、一緒に生活を考えて行きます。

グループホームの利用を考えの方は、まずは、お電話ください。わたくし、サービス管理責任者である増田が、お話を伺います。

最後に、グループホームネット香川のホームページがリニューアルしました。今後も新しい情報を更新していきます。よろしくお願ひします。

グループホームの利用をお考えの方は、まずはお電話ください。

**087-885-5270**

(平日 10:00 から 17:00) 受付担当 増田まで



## 寄 付 の お 願 い

会員の皆様、また関係者の方々には、日頃より当法人の活動に物心両面からのご協力をいただき、誠にありがとうございます。



ここ数年は、地域に住んでいる方からの利用相談が多く、従来の精神障害のみならず、発達障害など、様々な障害がある方からの相談が増えています。

そういったニーズに答えるべく、当法人ではホームワーカーの研修に力を入れてきました。人材育成には、時間もお金も必要となります。

入居者が落ち着いて生活を続けていくために、一番身近な支援者となるホームワーカーが安定し、長期的にかかわってくれることは、とても重要なことです。

様々な障害や問題を抱えながらも、誰にとっても地域生活が可能な社会へ。

本人の自己決定を尊重した自立のあり方について、実際の暮らしの中で入居者の方からお話をお聞きし、その実現に向けてともに取り組み、支え合う「グループホーム」。

その可能性、それを支える理事、職員にご期待していただき、有意義な“投資”として、ご寄附をお願いしたい！と思っています。

当法人の活動に、様々な形で支えてくださっている方々、特に大家さんや管理会社のみなさま、入居者のご家族、病院や福祉サービスの関係者、県や市の行政の担当者のみなさま、NPO活動に興味のある方、是非一度ご検討をお願いします。

また、現状の福祉サービスでは足りないと思うところのある方、会員となり、ともにその解決に向けて、一緒に考えてみませんか？

ご支援をよろしくお願い申し上げます。

(発行) 特定非営利活動法人 **グループホームネット香川**

連絡先： 香川県高松市円座町1124番地6

TEL : 087-885-5270 Fax : 087-887-5955